

「演劇ユニット・言葉の動物」のご紹介



◆主宰、作・演出家 西口千草

●平成3年3月 東京アナウンス学園 放送声優科 卒業

平成11年～ お笑いコンビとして活動開始。浅草木馬亭等で修業。

平成15年～19年 よしもとクリエイティブエージェンシー所属。

平成22年

文芸社よりエッセイ「膨張思念 幸せを招く寝言、戯れ言46」出版

平成23年～現在 演劇ユニット・言葉の動物を主宰。

作・演出・出演を担当。(今回で17回目の公演)

平成28年～ 似顔絵師としても活動を開始。お一人さま15分でお描きします。



「浅草で芸人として活動」



昔、主人と西口夫妻というコンビで浅草の舞台に立たせて頂きました。(木馬亭/浅草21世紀)

当時の舞台を朝日新聞に掲載いただいた記事です。

(ボニー&クライド⇒西口夫妻に改名)

何の実績もない無名の私たちを迎え入れてくれた街、下積みでお世話になった台東、浅草の街に何か恩返しをしたいという想いから第7回したまち演劇祭に参加させていただきました。



渋谷 CROSS-FM 2018・5・9

みつくんの新鮮アーティスト生絞り vol 9 ゲスト出演

<http://shibuyacrossfm.jp/program/wed/13.php>

「演劇界初?のゆるキャラ」

言葉の動物が他の劇団と違うところは
団体のゆるキャラがいることでしょうか?

左が「宇宙ひよこのひよさん」、

右がメインキャラの

「ふきだしちゃん」といいます。

ひよさん、ふきだしちゃんともに、

ゆるキャラグランプリにエントリー経験があります。



「笑って元気になれる本」

戯曲だけでなく、エッセイストとしても活動しています。

本を書くことが好きで文芸社より「膨張思念」、

クローバー出版より電子書籍で「1000人の偉人に翻弄されるより自分で悟れ!という読む漫才」を出版しています。

どちらも Amazon で取り扱いございます。

「演劇ユニット・言葉の動物」とは

●言葉の動物とは演劇ユニットのプロデュース団体です。

正式所属は作・演出の西口千草と制作の西口卓男の2名です。

出演者は公演の都度一般から公募しております。

演劇ユニット・言葉の動物はその名のとおり、言葉(台詞)を大切にする団体です。

お客様の座右の銘になるような台詞を日々考えております。

また、お客様からアンケートで次回作の台詞を頂くという試みも行っております。

●上演作品について

お芝居の内容といたしましては、善と悪、幸福と不幸、生と死など心の深い部分に切り込むような作品が多く、ともすれば説教めいたものになってしまいがちなところを押しつけがましくなく、さりげなく表現できていると、これまで評価いただいております。



これまでの歴史

2012年 5月 5日 act1 朗読劇「はじめの呼吸とおしまいの呼吸」

2012年 8月18日 act2 朗読劇「朱色の境界線」

2013年 2月10日 act3 朗読劇「トケテマザレ」

2013年 4月26日 act4 朗読劇「かよちゃんの子守唄」

2013年 6月29・30日 act5 「ひとつ、ふたつ、夏」

2013年 11月8・9・10日 act6 「それを形にするために手足はある」

2014年 2月26日 act7 朗読劇「抗う男と従う女」

2014年 9月29・30日 act8(池袋演劇祭参加作品)「あの世銀行やりなお支店」

2015年3月6・7・8日 act9 (杉並演劇祭参加作品)「トケテマザレ～わたしのつづきのあなた～」

2015年5月23日 act10「シャッフルファミリー」(ひつじ座 30 分劇場 Vol47 優勝)

2015年9月14・15・16日 act11「それなら生きるかそれでも死ぬか」(池袋演劇祭参加)

2015年12月21日 act12 朗読劇「言葉の動物・大感謝祭」

2016年2月6日 act13(南大塚演劇市参加作品)「ひとつ・ふたつ・夏」

2016年3月26日 番外編 朗読劇「退化論」朗読ファイトクラブ

2016年6月25日 番外編 朗読劇「かよちゃんの子守歌」朗読ファイトクラブ

2016年9月2・3・4日(池袋演劇祭参加作品) act14 「シュレーディンガーの猫が鳴く」

2017年2月2～6日(したまち演劇祭参加作品) act15「雷神 ing 俺だけの明日をつかむとき」

2017年9月22・23・24日(池袋演劇祭参加作品) act16「壊れ勝ち 七色の狂気を集めて」

2018年8月3日～7日(第一回七夕演劇祭参加作品)act17「ミガカヌカガミ～映り移りて虚ろな世～」